



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第56回)



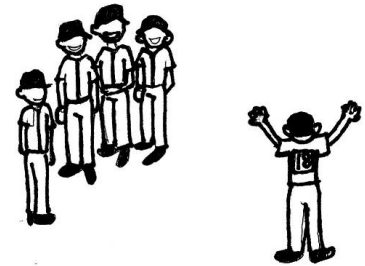
一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えします。

### マナー編 タイム取得時の伝令の行為

甲子園での全国大会を見ていると、守備側チームがタイムを取り、伝令でマウンドへ向かう選手がコミカルなパフォーマンスをするのを見かけます。場を和ませようとしているのですが、伝令は監督の指示を伝えるのが役割なのではないのでしょうか?

甲子園球場での選手権全国大会は東海大相模高校が征して幕を閉じましたが、県下ではすでに新チームが始動し、秋季県大会への出場を目指し、各地区で予選が繰り広げられています。各チームの活躍を大いに期待しています。  
さて、先の選手権大会でも少し気になった伝令の行動がありました。グラウンド整備を担当いただく方々の気持ちになって考えてみてください。グラウンド整備を担当いただく方は、整備不良による選手の怪我、試合を決するようなイレギュラーバウンド等がないことを願って丁寧に整備されています。そうした中で、「故意につまずく」「プレイと関係のない行為(ヘッドスライディング)」といった伝令の行動は、グラウンド整備を担当する者としてみると、「整備不良が原因でつまずいたのでは?」「グラウンドがプレイと関係なく荒れてしまうのでは?」と心配になりますよね。  
タイムの活用方法はチームに一任されていますが、伝令はよく考えて行動してほしいものです。



### ルール編 投手の正しい投球、送球は?

前月に続き、反則投球及びボーク適用事例の代表例と適用規則を紹介します。

当連盟審判講習会等で、「直接その塁の方向に自由な足を踏み出す」ことに関し、程度を問われることがあります。そもそも程度の問題ではないのですが、「自分の1メートル前後の地面に置かれた物を拾いあげようとその方向に足を踏み出す」ことが直接その方向に踏み出すことと説明しています。



【例: 走者一塁、投手板に触れている右投手が体、自由な足を回転させて一塁に送球した。】

【適用規則: 8・05(c)、原注】

以下に規則条文を記載します。

(c) 投手板に触れている投手が、塁に送球する前に、足を直接その塁の方向に踏み出さなかった場合。

【原注】 投手板に触れている投手は、塁に送球する前には直接その塁の方向に自由な足を踏み出すことが要求されている。投手が実際に踏み出さないうで、自由な足の向きを変えたり、ちょっと上にあげて回したり、または踏み出す前に身体の向きを変えて送球した場合、ボークである。投手は、塁に送球する前に塁の方向へ「直接踏み出さなければならない、踏み出したなら送球しなければならない。(二塁については例外)」

[関連記事]→第25号ルール編